

身近な水環境を調べよう！

－ 「第14回 身近な水環境の全国一斉調査」参加のお願い －

全国水環境マップ実行委員会 実行委員長 小倉 紀雄
 長野支部責任実行委員 沖野 外輝夫

「身近な水環境の全国一斉調査」は市民グループと国土交通省・(財)河川環境管理財団が連携し、実施しています。

本調査は、「パックテスト」という簡単な調査キット(無償で配布)を用いて、全国で一斉に調査を行い、その調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が他地域と比較して良くわかります。

また、調査を10年20年と継続することでこの調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まることも期待されます。子供から大人まで大勢の皆さまの参加申し込みをお待ちしています。

詳細な調査結果は、本調査専用ホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省河川局のホームページで公表されています。

調査日時 2017年6月4日(日) ※世界環境デー(環境の日)に近い日曜日

測定項目 気温、水温、COD、その他(任意)

測定方法 取扱説明書に基づき、調査キットにて測定

(調査キットは参加申込者に毎年5月頃事前に配布予定)

参加ご希望の方は 上記ホームページから参加申込用紙をダウンロードの上

2017年3月10日までにE-mail または FAX で申し込みができます。

全国一斉調査 お申し込み先

FAX : 042-327-3169 E-mail : mizutomidoriken@ybb.ne.jp

なお、ご不明の点は下記の信州水環境マップ・ネットワーク事務局宛てにご一報ください。また、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。

信州水環境マップ・ネットワーク事務局 沼田 清

〒389-0206 長野県北佐久郡御代田町御代田 2538-11

電話 0267-32-8608 携帯 090-9801-6671 E-mail : ecolabo@f4.dion.ne.jp

Web : <http://shinsyu-mizumap.midorinooka.net/> この中の長野県水環境マップ

web マップ版を開いて過去三年分の変化を比較しつつご覧ください。

2016年 第13回身近な水環境の全国一斉調査	
長野県版マップ 調査地点 301ポイント	
番号	調査グループ名
1	NPO法人 みどりの市民
2	NPO法人川の自然と文化研究所
3	エコラボ クラブ
4	グリーンヒル友の会
5	パナソニックグループ労連 山梨・長野地区連 PGU
6	浦里とんぼの会
7	下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会
8	軽井沢水楽会
9	戸隠地質化石博物館
10	信州大学環境ISO学生委員会
11	信州大学松本キャンパス環境ISO学生委員会
12	諏訪湖クラブ
13	水環境チーム
14	千曲川水生昆虫研究会
15	倉升 5年生
16	長野市水環境研究サークル
17	天竜川総合学習館かわらんべ
18	湯川 水の会
19	飯水自然調査研究委員会
20	法政大学水文地理学研究室
21	矢作川環境技術研究会
22	他に個人参加は1名

【2016年度全国一斉水質調査講評】

2016年度全国一斉水質調査に参加された22グループの皆様、ご苦労様でした。昨年度と同様に長野県下の測定地点の結果を一つの地図にまとめました。自身が測った地点の結果を他の地点と比較し、自分の身の回りの水環境に関心を持ち、その状況を判断する参考として下さい。

地図を見るとお分かりのように、今年、長野県下で測定された301地点中の45%が水質良好でした。これは昨年の測定結果59%に比べると良好とは言えませんが、天候の差、調査地点に差があることを考えれば単純に水質が悪化したとは言えません。しかし、水質要注意の赤いマークが今年度も長野市周辺に集中しているのが気になります。一方、昨年は青マークだった諏訪地域、千曲川中流域にも黄色マークが増えています。気象条件の差もありますが、長野市・上田市周辺や諏訪湖流域に住む人たちのなお一層の努力を期待するところです。今年も法政大学の仲間による木曾川水系の調査が行われました。矢作川グループなど、県外の方々の協力を得ながら、長野県の水環境をさらに良好に維持していくために私たちの日常生活で水に対する気配りを願います。昨年に引き続き、千曲川水系、天竜川水系、木曾川水系、犀川水系、姫川水系、さらには裾花川など、支流の測定地点などでも仲間が増え、長野県域全体をひと目で比べることができるようになりました。

今年の観測日前後はやや天候不順でしたが、測定時の水質は測定前の天候や、上流の状況に左右されます。人間活動の盛んな地域では一日の時間帯によってもさらに水質が大きく変わります。水質測定の体験を機会にさらに詳しい水質測定や川との様々な触れあいを心がけてはいかがでしょうか。自分たちが住んでいる環境の状況を自分自身で測ることにより、毎日の生活が環境に配慮したものになることを期待しています。

今年も事務局を中心とする関係者と各地域の参加者の誠意と努力によって調査を継続することができました。来年度にはさらに多くの地域で測定仲間が増えるよう皆様のご協力をお願いします。(沖野外輝夫記)